

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 29 年度第 2 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 29 年 7 月 4 日 (火)		
開催場所	小金井市中間処理場事務所棟 研修室 I		
出席者	委員	<出席者：12 名> 渡辺会長・岡山副会長・石田委員・北澤委員・杉本委員・吉田委員・黒須委員・多田委員・清水委員・波多野委員・林委員・岸野委員 <欠席者：3 名>	
	事務局	小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・富田・高田・信岡・佐藤・玉井	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 2 報 告 燃やすごみ処理量の昨年度との月別比較について 清掃関連施設整備基本計画（中間報告）について 3 議 題 平成 2 8 年度施策の実績報告について		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他			

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	<p>それでは、平成29年度第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>本日は、齋藤委員、山田委員、大江委員から欠席の連絡が入っている。</p> <p>事務局から配布資料の確認をお願いしたい。</p>
玉井減量推進係主任	(配布資料確認)
小野ごみ対策課長	本日は、時間があれば清掃関連施設に関する説明も行っていただきたい。
渡辺会長	<p>事前に郵送された会議録について、修正等があれば発言していただきたい。</p> <p>特にないようなので、事務局にて公開手続きに入る。</p> <p>それでは、事務局から配布資料について報告と説明をお願いします。</p>
玉井減量推進係主任	(「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について」説明)
渡辺会長	次に、岡山委員長より専門委員会の報告をお願いしたい。
岡山副会長	(「可燃ごみに含まれる資源化可能物の調査・研究に関する小委員会 第1回及び第2回」報告)
渡辺会長	それでは、議題の平成28年度施策の実績報告・委員評価集計結果について、事務局から説明をお願いします。
小野ごみ対策課長	(参考資料「平成28年度施策の実績報告」を説明)
渡辺会長	<p>平成28年度の施策の評価に関して検討していきたい。</p> <p>このまま、公開で良いか。また、特に審議会として市に一押しできる意見等があればここで決める。来年以降、どのような方法で行くのが良いかを検討することになると思う。</p> <p>まずは、結果やコメント等について、ご意見があればご</p>

(審議過程) 主な発言等

杉本委員	発言願いたい。 提出資料の月別比較に戻るが、今年度から枝木の回収方法が変更され、少し増えたような気がする。状況はいかがか。
小野ごみ対策課長	前年に比べて4月の枝木処理量は約30トン、5月は約65トン、6月は約71トン増えている。今は枝木が多い時季だが、12月を過ぎるとほとんど出なくなる。7月、8月は雑草類が出るが量は多くない。落ち葉の時季にどれだけ出るか、今後の伸びはまだ分からない。
渡辺会長	今年に入って、燃やすごみの量が減っているのは、恐らく枝木の扱いによるものもあるだろう。 施策の評価でいうと、基本は昨年と同じフォーマットなので、平均点を前回と比べてみると面白いのではないか。
小野ごみ対策課長	参考までに、「1発生抑制を最優先とした3Rの推進」の計画項目「1ごみを出さないライフスタイルの推進」に関しては、点数はほぼ変わらない。一方、計画項目「2リユースの促進」に関しては、0.1程度下がっている。「3分別の徹底」、「4資源循環システムの構築」、「5啓発活動の強化」はほぼ同じだ。「6環境教育・環境学習の推進」は、今回評価していただいたほうが点数は高い。「7地域におけるひとりづくり・まちづくりの促進」は、今回のほうが若干高い。「8拡大生産者責任の追及」は、今回のほうが若干低い。「9事業活動における3Rの推進」、「10市施設における3Rの推進」は、今回のほうが点数は高い。施策の展開の「2安心・安全・安定的な適正処理の推進」に関しては、私どもが重点を置くべきところだと思っているので、比較にならないと思う。
杉本委員	毎年、このような評価を続けていくことに意味があるのか。
小野ごみ対策課長	前回も自由記載欄を設けたが、当時の審議会委員一人ひ

(審議過程) 主な発言等

清水委員	<p>とりのご意見であり、審議会全体としての意見という形での集約はしなかった。今回、その部分をご議論いただけるなら、参考になると思っている。</p> <p>意見を集約するのは難しいが、コメントの中で主なものをピックアップして、全体的な評価をまとめられないものか。コメントの羅列でもいいので、概要版を作って市民公開してはどうか。</p>
杉本委員	<p>昨年とあまり変わらないという結果は、極端なことがない限り大きく変わらないということだ。比較のために毎年続けることは全く意味がないとはいえないと思った。</p>
渡辺会長	<p>大体3点以上だが、2点台が2箇所あるので、そこは頑張らないといけない部分かと思う。</p> <p>例えば、7の「ごみ相談員制度の認知度向上」が平均2.8なので、ごみ相談員制度というのは、あまり知られていないという状況がわかる。</p> <p>また、8の「拡大生産者責任の追及」も2.8だ。市ができることが限られているということもあるかも知れない。</p>
林委員	<p>私は、拡大生産者責任追及の進捗状況というのはよく分からなかったので、評価できないと思った。</p>
石田委員	<p>窓口が都道府県だ。条例として小金井市が特定したものを作って、それを追及するということがない限りは、評価する必要がない項目だと思う。</p>
渡辺会長	<p>ローカルに拡大生産者責任を追及するということをやっても良いのではないか、ということならばあるのかも知れない。</p>
石田委員	<p>ただ、小金井市だけが突出してやるというのは非現実的だ。</p>

(審議過程) 主な発言等

林委員	施策としては、国や都への働きかけだが、国と都への働きかけがどう行われたか、私たちは分からない。
石田委員	評価から外しても良い項目だと思う。昨年と比較して評価不能が減っている。
渡辺会長	実感から言うと、前は突然出てきた感が強かったが、今回は、前置きの話があり、評価方法についても変えようという議論があったので、評価不能が比較的少なくなったのかと思う。
岸野委員	私は、ごみゼロ化推進会議の事業所部会として、リサイクル推進協力店認定事業に携わっているが、「9事業活動における3Rの推進」の「(5)リサイクル推進協力店認定事業所の拡大」部分の評価が高いので、ある程度理解されているのかと思うと、元気付けられた。
渡辺会長	リサイクル推進協力店の拡大に関しては、数字で示されるので、進捗度合いが評価しやすい項目だったと思う。
石田委員	店舗数を増やすことが目標ではなく、回収量が増えれば良いので、事業所数を評価に入れているのではなく、実績でどれだけ回収されたかに重きを置いたほうが良いのではないか。 大きな事業所は、法律上の制約やISO規格によりやっている。やっていないのは、個人の事業所だと思う。そういうところに数を増やす要求をすることに無理があるのではないか。やってくれている所で実績を上げて貰うような対策を強化したほうが、実態に合うのではないか。
渡辺会長	市内全体で、9事業所よりも増やすことができるのではないか。主だったところは、カバーできているのか。
林委員	取組内容に対応する施策を読み下しながら、その施策が取組内容にいかにか有効だったかということを書き出す作業だ。1対1であればシンプルなのだが、いろいろな取組内

(審議過程) 主な発言等

	<p>容に同じ項目が出てくるので、この観点での取組内容にこの施策が合ったのかどうか考えるとアバウトな話になりがちだ。</p>
渡辺会長	<p>特に対応する施策が多くなってくると、どこを評価しているのか分からなくなる。</p>
林委員	<p>評価理由に前年と全く同じことが書かれていると、この1年間を評価しているようには見えない。やったことがあれば書き込んで欲しいし、書いていることで、私たちが取組内容を評価するときに判断ができる。</p>
杉本委員	<p>私は最初、この評価で施策が見つかるのか疑問だったが、平均点を下回る部分は何とかなければならないし、点数が良いのは、私たちも評価している部分がある。よって、この評価は使えるという気がしてきた。</p>
林委員	<p>評価Cが前年のまま残っているのを何とかしなければならないという議論も必要だと思う。</p>
岡山副会長	<p>「(5)サイクル推進協力店認定事業所の拡大」では、進捗度は4だが、「(6)店頭回収の促進」は3.5である。普及啓発はどこにでも入ってくるので、今の評価は、それも合わせた上での施策だということで、評価の対象にしている。すると有効性自体は、店頭回収のほうが高い。施策が店頭回収の促進に有効であるという意味では、普及啓発の部分は、認定事業所拡大よりも重要だと捕らえていることになる。C評価を何とかしたいということであれば、店頭回収の協力店は、もっと大々的に市のホームページや市報で広報してはどうかというふうに繋がるのかと思う。</p>
渡辺会長	<p>どこにでも入る啓発系を割り引いて評価して、その施策特有のものについては重視している現れかと思う。対応する施策が多くても、皆さん、目をつけるべきところはきちんと見ている感じがする。</p>

(審議過程) 主な発言等

小野ごみ対策課長	<p>補足説明だが、以前から拠点回収や自主回収を行っている店舗をリサイクル推進協力店認定という形で拡大させていただいた。しかし、それが自主回収に直結するわけではなく、設置場所などの店舗側の都合もある。</p> <p>また、自主回収というのは、企業が自主的に企業の努力の中で収集し、企業の中で処理していただいているので、私たちのごみ量にカウントしない。しかし、拠点回収については、市が回収するので、拠点回収ボックスを置いてるところについては、市のごみ量に含まれる。よって、拠点回収を自主回収に替えて貰えないかという働きかけをしているが、企業としては今の段階では難しいようだ。今後、ドラッグストアなどで拠点回収もしくは自主回収店舗の拡充が叶えば、(6)についても評価が高くなると思う。</p>
岡山副会長	<p>そうすると、「(6)店頭回収の促進」の対応する施策として②も含まれているのではないか。</p>
富田減量推進係長	<p>リサイクル推進協力店は、対象となる項目が7つある中で、3つ以上該当していれば認定する。よって、必ずしも自主回収を行ってなくても、それ以外の取組が項目に該当していれば、リサイクル推進協力店になることができる。</p>
杉本委員	<p>要綱の改正はできないのか。</p>
富田減量推進係長	<p>改正はできるが、リサイクル推進協力店の理念の中で、自主回収をしていないところは認めないというところは観点がずれてくる。個人商店に対しては、該当する項目が相当厳しくなる。</p>
小野ごみ対策課長	<p>ごみゼロ化推進会議の事業所部会から認定項目等見直しの提案をいただいている。また、市でも検討している。例えば、自主回収はしているが一種類しか回収していないので、後は拠点回収で市が回収しているという店舗もある。</p>
富田減量推進係長	<p>「⑥自主回収・自主処理を行う店頭回収事業所の拡大」の進捗がC評価になっているのは、店舗数が増えていないか</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>らだが、市内の大型スーパーは自主回収または拠点回収のほぼどちらかをやって貰っている。よって、これ以上、回収容器の店頭設置をお願いしても、店の規模的に厳しい。進捗Cが改善しない原因かと思うので、評価方法を考え直すしかない。</p>
岡山副会長	<p>現状維持ということだと思う。</p>
清水委員	<p>ドンキホーテはどうしているのか。以前、長崎屋のときは回収ボックスを置いていた。繁盛しているのでやるべきだと、地元にいると思う。</p>
小野ごみ対策課長	<p>現時点では働きかけをしていないが、今後対象となる。</p>
岸野委員	<p>事業所部会の中でも話が出ている。</p>
清水委員	<p>誰が責任者か分からないので、商店会でも苦勞している。</p>
多田委員	<p>量販店であり、他のスーパーとは違うという認識ではないか。</p>
清水委員	<p>廃棄物を出しているという観点では同じである。</p>
林委員	<p>先ほどの説明であれば、評価理由や今後のアクションのところにそういう説明が書かれていても良い。今は頭打ちの状態になっているので、今後、別のことを重点的に検討するという方向が評価の中で説明されても良いと思う。</p>
富田減量推進係長	<p>目標設定が件数になっていることもある。</p>
林委員	<p>それならば、拡大という言葉自体を見直したほうが良い。</p>
石田委員	<p>評価理由のところに次に繋げる回答を記載すれば、必ずしもC評価でなくても良いのではないか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>減量審の中でも議論いただいた部分だが、評価基準に対</p>

(審議過程) 主な発言等

<p>清水委員</p>	<p>する評価という形で書いている。もっと大きな意味での評価ということになると、石田委員の発言のようになるが、現時点の評価はそういう形になっていない。</p> <p>審議会として評価する意味合いは何かということだ。大きなテーマの計画項目に対して、目標を設定してうまく行っているという定性的な評価にならざるを得ない。この辺は、審議会委員の感性的な形で意見を述べたものを集計する。一方で、施策について、個々の部分的なテーマは、細かく内容がよく分からないことが多いので、実際にやっている市の職員の評価が大事である。尚且つ、なぜその評価が大事かという、今後やるべきものと止めるべきものを区別するための評価だと思うからだ。施策とは放っておくと増える方向で削れない。市側から止めるとも言いにくいものである。むしろ、審議会として効果がないため止めてみてはどうか、別の方向で考えてみてはどうかと進言し、根拠にするための評価を出すというのが、審議会の立場として大事なのではないか。そういう意味で評価するのであれば、審議会の意味がある。100%の評価をしるにしても無理である。感性的定性的な評価をし、個々の施策のどれを強く進め、どれを止めていくかといった切り分けをしてはどうか。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>「事業活動における3R推進」で今言った事情もあって、自主回収する大型店舗は増えようがないので、市側からするとCを付けざるを得ない。一方、審議会で評価したときに有効性は4点と非常に高い。市側からすると増えないのでCをつけざるを得ないが、私たちとしては、これら有効なので引き続きやって欲しいという励ましに取れる。そういう風に取り取るのが良いと思う。</p> <p>「(2)事業系ごみの発生抑制の推進」に対応するのが「①個別指導」だけだ。例えば、施策の「②リサイクル推進協力店認定事業所の拡大」をリサイクルではなく3Rにした場合は、発生抑制をこちらへ移せると思う。例えば、小さな飲食店等で協力してくれるところには、小盛りメニューをつけるとか、持ち帰り用のドギーバッグをくれるところは、</p>

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	<p>協力店認定をして市のホームページに載せるだけでも事業者のごみが減る。市としてはあまり興味がないのかも知れないが、事業者のごみの発生抑制には繋がる。今後の話としては、リサイクル推進協力店ではなく、次回は3R推進協力店にしてはどうかという見直しにも使える評価かと思う。</p> <p>「8 拡大生産者責任の追及」については、評価不能が多い。評価不能が多いところについては、評価の対象から外す方向で動くのが良いのではないか。少なくともこういう政策評価には、そぐわない項目である。</p> <p>市側で評価して貰いたいところをピックアップして、もっと重点的に評価し、ここは不要というところは評価項目から外すことをもっとやっても良い。</p>
石田委員	<p>計画というものは、何か改善する目的で作るものである。評価するものと評価しなくてもいいものに分けてもらえると、我々ももっと有効性の高いコメントを出せると思う。</p>
渡辺会長	<p>裏返せば、満遍なくやっていることに対して、自由記述の意見等は欲しいというところがあって自由記入欄を設けており、一通り全部という感じになっていると思う。</p>
岡山副会長	<p>大変重要だと思っている。PDCAの中に、Cのチェックをやって、これは今後政策をどう改善するのかということに活かすわけなので、コメント欄には、この政策はこう改善できるのではないか、ここは市の評価は低い、審議会としてはこう考えるので引き続きやろうとか、そういう評価コメントが入るのが望ましいと思う。評価不能が多いところでは、来年度は評価項目から外すのはいかがかというコメントが入れば良い。</p>
吉田委員	<p>事務局として、評価結果を受けて新しいステップに具現化したことはあるか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>評価自体が2年目なので具体的なものは少ないが、例え</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>ばごみ減量キャンペーンについては、事務局と審議会委員の皆さんの評価が一致して、効率性・効果が少ないということで実施回数を見直した。</p> <p>また、ごみゼロ化推進員からのご提案もあったが、リサイクル推進協力店の要綱見直しを検討している。岡山先生からのお話にもあったが、「3R推進協力店」については、私たちも検討しているところである。自主回収店舗の拡充についても、頭打ちではなく、ごみゼロ化推進員の方々がドラッグストアに声を掛けしている。ドラッグストアは駐車場があるので、回収ボックスを置くスペースがあるかもしれない。行政とごみゼロ化推進員が連携を取りながら、自主回収店舗の拡充を図って行きたい。今回、新規の自主回収店舗はゼロ件だったが、もしかすると来年は増加する可能性もある。</p> <p>皆さんの評価やコメントに目を通して、確かにそうだという部分については、改善・拡充を図り、逆に事業の廃止や縮小にも、少しずつではあるが取り組みたいと考えている。</p> <p>計画項目は、基本計画で出ているので変えられない。変えていいのは施策だ。その評価をしっかりと、審議会としては、こういう観点でここを重点的に、また、ここは抹消してもいいくらいの評価をしたほうが次年度の処理計画を立てるときに、施策がどうであるか施策のベースができる。個人としては色々な意見があると思うが、集まった委員の中でおおよその評価ができたということが評議会の意味合いであると思う。</p> <p>「⑤イベントへの出展」は効率性の評価がCになっている。市民まつりは、他自治体の参加者が多いので効率的ではないかもしれないが、イベントとしては意義があるものだ。全体としてイベントの数が少な過ぎる。駅頭キャンペーンを減らしているようだが、それで啓発活動を強化するのは難しいのではないかと。部局が自己評価しているそのものをもっと議論していただきたい。</p>
--	--

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	他の自治体の参加者が多くても、本市の取組みを他の自治体に知ってもらうことになり良いのではないかというコメントは記載している。
多田委員	イベントといっても、桜まつりやお月見のつどい、農業祭など多々あるのになぜ市民まつりに限定しているのか疑問だ。
清水委員	科学の祭典で出していなかったか。
小野ごみ対策課長	目的に沿わないため参加を止めた。
岡山副会長	例えば、計画項目の「5 啓発活動の強化」、取組内容「(4) イベントへの出展」の対応する施策に⑧イベントへの出展が入っていない。⑧が抜けているのはミスだと思うが、⑧が入っているものとして読むと、市の評価としてはCだが、⑧を評価して有効性で4.0とか、4.1と入ってくると、施策としては有効だとして評価できると思う。
小野ごみ対策課長	二つの観点から説明させていただきたい。一つは、前回は説明したが、これはごみ対策課としての評価ではなく、担当者の評価であることを審議会の皆さんにご理解いただいた。 別の観点からでは、小金井市民のごみ減量と資源化の推進ということだけを考えると効果が薄い。しかし、他自治体や市民へのアピールとか、イベントに参加することによって人を集めて、ごみ対策課が市民まつりでブースを出展しているということを知って貰うことも、違う意味での効果があると考えている。過去はほとんど人が来ないブースであったが、職員が様々な案を出して毎年イベントの内容を変え、3百人程度の来場者がブースに来てくれる。この二つの観点からの評価であることをご理解いただきたい。
林委員	来年あたりはB評価になるのか。担当者が効率的とは言えないと判断しているのが問題である。

(審議過程) 主な発言等

小野ごみ対策課長	小金井市民に対する計画という位置づけで見ているからである。
岡山副会長	担当者の主観ということだ。一生懸命にやっているので進捗はAだと思うが。肌感覚として小金井市民に対するPRには今年も繋がらなかったということだろう。
清水委員	市報を作れば数万人にアピールできる。1日イベントをやっても100人来てくれたかどうかだ。それでも通知することが重要であるとすれば、それを逆にボランティアに振る格好で、ボランティアを支援する仕組みを作れば、担当者がそんなに苦勞せず、それなりの効果が期待できるかもしれない。そういう視点を入れていかなければならないので、C評価だから落とせとは言えない。
岸野委員	くるくるカメ君を動員すれば、子どもたちも来る。
林委員	ごみゼロ化推進会議でも、今秋、一緒にやらせて欲しいというスタンスでいる。そういうところから考えると効率的とは言えない。
小野ごみ対策課長	今年度の市民まつりはごみゼロ化推進員の方々にもお手伝いいただく形になるが、そのときにぜひ感じていただきたい。
石田委員	効率的に考えると100%小金井市民に来て欲しいが、廃棄物の認識というのは、都民として考えるという話なので、その評価を下げる必要はないと思う。
小野ごみ対策課長	担当者はあくまでも小金井市民に対するアピールというところでは低いという評価をした。
岡山副会長	重要な話だ。「イベントへの出展」の施策の有効性の中に、広報媒体が入っていない。イベント広報をもっとすることによって、有効性をもう少し増やせる。市の自己評価は低い、審議会としては重要と判断し、引き続き強化してい

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	<p>ただきたいというコメントを「5 啓発活動の強化」のコメント欄に残すことでいかがか。</p> <p>逆の話になるが、組成分析に関しては評価が高い。しかし、専門委員会の議論では、定量的に市民がきっちり分けられているかどうかを測るような組成調査ではないという結論だった。分別をきちんとやっているかどうかを確かめるための組成分析だったらやり方が違う。あくまでも焼却の元データとして取っているというところが主目的の分析だ。</p>
林委員	<p>委員のコメントで改善について書かれている。</p>
石田委員	<p>事務局にはもっと委員の評価の参考になるような説明を入れていただきたい。</p>
岡山副会長	<p>繰り返しになるが、市の評価はこうであるが、委員としてはこう思うという意見をコメントに記載する方法でよい。今この場ですり合わせ作業をしている。これを受けて評価が変わることもある。</p> <p>計画項目の1は発生抑制で一番重要なところだが、具体的な施策は、大半が普及啓発だ。非常に大切な取組内容に対して、大枠の中身が普及啓発の性格だ。しかし、その有効性が低い。個別に見ても一番高くて水切りである。ここは来年度に向けてどう改善するのか。</p>
北澤委員	<p>一般的に点数付けすること自体はあまり意味がない。コメントが今後の方向性や改善に役立つと思うが、そのためには評価理由をもっと細かく書いてもらわないと分かりにくい。進捗状況と効率性の両方に対し、担当者としてどういう理由で評価したか、もっと明らかにしてもらおうと全体的な流れを見ながら委員として、もっとこうすればいいのではないかなど書きやすくなる。</p>
渡辺会長	<p>当初から、施策についてではなく、取組内容について評価する形を取っている理由の一つとして、施策一つ一つについては、市役所で評価をしているし、市役所のほうが情</p>

(審議過程) 主な発言等

林委員	<p>報を持っているので、敢えて我々が二重に評価する必要がないということで、取組内容毎の評価という形でやってきた。しかし、今回の話を聞いていると施策ごとの評価に対するチェックという位置づけを我々が担うという形でも良いのではないかという感じがしてきた。そうすると、市側でAとかBとかつけたものに対して、評価理由のところを充実してもらって、我々がコメントをするやり方がある。</p> <p>やり方としては今までと同じやり方で良いと思う。ただ、北澤委員が言われたように評価理由をもう少し詳しく書いてもらえれば分かりやすい。</p>
北澤委員	<p>施策自体の評価は原課がやっているの、その課の担当の思い入れがある自己評価になる。それに対して委員が評価するのはおかしい。それを踏まえたうえで全体の取組内容を評価するに当たって、もう少し進捗状況や有効性に関するきめ細かなコメントが欲しい。それがあれば書きやすいと思う。</p>
岡山副会長	<p>今回、個人的には進捗度は不要で、有効性だけでいいと思っていた。「1 ごみを出さないライフスタイルの推進」とか「2 リユースの促進」などあらゆるところで普及啓発に関することが入っている。それを細かくするのもありだが、ざっくり見て普及啓発に関するところで、市の自己評価が低いイベントも入れた上で、全体として普及啓発はそれなりに頑張っている。ライフスタイルの変革への支援について普及啓発がどの位有効だったかということを見たときに、ライフスタイルの変革への支援の普及啓発の効果と、リユースルートの構築のための効果とは有効度が違うと思う。不要というのも一つの意見だし、ライフスタイルを変革するために、市民に対してなんらかの普及啓発をやるのが有効であるとなればここに5をつける人もいるということだと思う。</p>
渡辺会長	<p>従来どおり取組内容の評価でいいという感じだ。一つ一つの施策でやると項目が増える。また、二重に評価する意</p>

(審議過程) 主な発言等

岡山副会長	<p>味があるのかというのもご指摘のとおりだ。簡素化するとしたら進捗度を止めて有効性だけにするのもありかと思う。</p> <p>ライフスタイルの推進こそ、市民に対して生活を変えて欲しいというわけなので、やれることと言えば普及啓発しかない。その重要度は高いと思う。ここの評価だけで見るとそんなに高い評価はされていない。一方、「3分別の徹底」で見ると、正しい分別方法の周知に関しては自己評価が高い。分別に関して教育するに当たっては、普及啓発は有効であると評価されていると言える。我々としてこの評価をどうまとめるか、どのようなコメントを残すかだと思う。</p>
渡辺会長	<p>結局、目標としているのが分別の徹底であれば可能かも知れないが、ごみを出さないライフスタイルの推進ということで言うと、どこまで有効かは疑問が残る。</p>
岡山副会長	<p>例えば、水切りについては、小委員会が立ち上がっている所以他より評価が高いのだと思うと面白い。</p>
渡辺会長	<p>よく見ると評価に反映されているということだ。</p>
清水委員	<p>年次処理計画を立てる上では、施策の内容を評価して、アクションの方向性が妥当かどうかと言うことと、審議会委員としての意見が反映されているのか、というところが大事だと思う。むしろ施策を評価して、アクションの分析に反映させていくというのもある。</p>
北澤委員	<p>それをするにはデータが少な過ぎる。もっと中身を書いてもらえれば、取組内容のコメントとして書ける。</p>
清水委員	<p>施策の数が多過ぎると思う。</p>
林委員	<p>確かに絞ったほうがいい。</p> <p>施策のキャンペーン活動の再構築についての評価理由に「キャンペーン方法の見直しにより、経費削減を図ること</p>

(審議過程) 主な発言等

<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>ができた」と謳っているが、ごみ対策課の目標管理のひとつとして、経費削減を掲げているのか。</p> <p>ごみ対策課としては、ごみの減量・資源化の推進を進めていかなければならないが、基本計画でもコスト管理は重要としている。その中で、今回担当者は、キャンペーン縮小により、他の啓発活動に経費を充てることができたということを書いたのかと思う。効果的に経費を使うということで啓発用エコバッグを3種類作ったが、経費削減により別の効果を求めるということを書いている。</p> <p>ちなみに、行政の評価は施策の進捗と有効性という評価ではなくて効率性だ。皆さんに評価していただいているのは、進捗と有効性だ。市としては、有効性が低くても市としてやらなければならない事業がある。そこを読み取っていただいた上で、皆さんに有効かどうか判断していただきたい。</p>
<p>石田委員</p>	<p>そうすると、進捗の評価は、二重になるので我々がやらなくても良いと思う。効率性中心になるかもしれないが、本当に有効なのかと言う評価をして、そういう観点からコメントしたほうがいい。やってないじゃないかという事を書くのはあまり意味がない。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>この中で、満点なのは枝木だ。進捗は明らかなので評価としては妥当だ。私は、普及啓発群だけは色を変えて欲しいと思っている。</p>
<p>清水委員</p>	<p>審議会としては、施策の必要性和成果の二つ行を並べて、そこに各自の意見を入れればよいのではないか。成果は上がっているけれど必要ではないものはやる必要がない。逆に必要性が高くて成果が低いものは、なんとかしなければならない。そういうことを施策毎にやらなければ具体的な施策は出てこない。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>施策の中には、いくつもの取組内容に渡っているものもあって、どの目標に対して有効か有効でないか判断しなけ</p>

(審議過程) 主な発言等

北澤委員	ればならない。対応する施策が多いので、次回以降は、一重丸の施策と二重丸の施策とかにして分かりやすく表示することができるかと思う。
北澤委員	意図として、この取組をやるためにはこの施策が一番有効だと思っているということか。それでドライブしていくという意思表示で、対応する施策を絞ったほうがいいのかも。ある程度重みを付けが必要かと思う。
岡山副会長	確かに重み付けがない。
渡辺会長	少し、次回以降の方向性が見えてきたと思う。
北澤委員	広報的なものに対しては、評価としてホームページを見やすくしたと書いているが、それを受け手がどう捉えたかきちんとチェック機能を果たしながら、次のアクションに繋げていく。どう改善して欲しいか、ある程度、市民の声を集めてみるほうがいい。
小野ごみ対策課長	一つ的手段として、ごみゼロ化推進員の方々との話し合いの中で、ホームページやチラシはどうだったか、意見を聞くことは可能だ。
北澤委員	ホームページにアンケートの項目を作って、いつでも意見を集約できるようにしてはどうか。そのほうが、常にチェック機能が働くことになる。
岡山副会長	施策の展開「5計画の実効性を高める仕組み」の取組内容に対応する施策が一つだけなので、コメントに市民アンケートも随時取れる施策があってはどうかという意見を入れてはいかがか。
渡辺会長	そうすると、コメント欄をどう一般公開するのかというところに繋がってくる。基本は、事務局で一般公開できる形に個別調整してもらいたい。

(審議過程) 主な発言等

小野ごみ対策課長	原則、コメント欄も含めて全公開だと捉えている。本日、最終版を配布させていただいているので、訂正・削除等があれば個別に担当者にご連絡いただきたい。
富田減量推進係長	誤植や固有名詞等についてはこちらで訂正できるが、ご意見の強さについてはこちらでは図りきれない。修正のご連絡は7月18日までをお願いしたい。
渡辺会長	その他、事務局から報告はあるか。
小野ごみ対策課長	実績報告は諮問前までに確定したいので、8月公開を予定し調整させていただく。 今後の予定だが、ごみ減量駅頭キャンペーンを7月13日、午後6時から東小金井駅で、7月24日午後6時から武蔵小金井駅で実施する。お時間がある方はキャンペーンの効果を実感いただくためにもご参加いただきたい。 次回の審議会は諮問まで時間が空き、10月頃を予定している。また、渡辺会長が本日で最後になるので、一言お願いしたい。
渡辺会長	8月から1年間海外研修に行く。次期会長は岡山副会長をお願いしたいと思っているが、色々な役職を務めておりご負担をかけているので、皆さんのご協力をお願いしたい。
小野ごみ対策課長	配布した清掃関連施設整備基本計画の報告については、平成28年度の報告であり、内容が決定するものではないので、その旨ご理解いただきたい。第5回検討会議の資料も配布させていただいたので、何か不明点があればご連絡いただきたい。
岡山副会長	次回、専門委員会は8月18日金曜日15時から17時までで開催したい。場所は追って連絡する。
渡辺会長	それでは、これで閉会とする。